



2020/8.23

第1674号

日本共産党 宮古地区委員会 市内宮町4-6-49 電話62-5808 FAX 62-3897

しんぶん赤旗 日刊紙3497円 日曜版 930円

10年間で市内宿泊客は約倍増

見えにくい遊覧船事業効果

6日、市が議会に説明した遊覧船の事業終了にともなう今後の進め方は市の経営会議、議会説明をふまえて観光審議会等にはかり方針を決めます。



来年1月で役目を終える観光遊覧船陸中丸

4766人と半分近くまで減りましたが、宿泊者は25万2550人とこの10年間で2倍近くに増えていきます。これを見る限り遊覧船事業が宿泊とはあまり関係が無いようにも見えます。

田野畑村では新造船

岩手県北自動車(株)は、遊覧船による浄土ヶ浜周遊コース事業を来年1月11日で終了を決めています。その一方で、同社は交通・観光事業者として観光振興を図り、三陸沿岸交流人口の拡大に貢献する方針です。

過去の乗船実績と市内宿泊者の関係を見ると2010年度乗船者10万4929人に対し、宿泊者は13万5584人でしたが、昨年度は乗船者5万

市の遊覧船は定員400名、料金大人1500円、小人750円ですが田野畑村の場合、料金はほぼ同額ですが、定員95名(旅客92名)の「北山崎断崖クルーズ観光船」事業があります。船は、2014年度、アルミ合金製19ト、船舶用高速ディーゼル機関2基、最大速度18ノットを1億3068万円(村から9000万円補助)で新しく整備しています。

商品券は進捗約6割販売
宮古商工会議所(花坂康太郎会頭)は、独自支援策を含むコロナ感染症に対する経済支援を行っています。

以前、報じた「みらい飯」以外では①「宮古の味が恋しいいわキャンペーン」、②「三陸宮古魚介(うお)づくし(仮称)」、③「みやこでKuBe(喰うべえ)」

④各支援制度申請の「個別相談会」開催があり、8月1日から地域内経済循環事業の「宮古市プレミアム商品券」の発売も始まっています。

11日にかけて配送されます。③喰うべえは市の所管で、参加登録店は72店舗から80店舗に拡大、業者間の協力を生んでいきます。④は第2弾となる相談を商工会議所3階、大会議室で8月4日から開始、9月30日までに全10回、開催します。プレミアム商品券は発行枚数5万セット、3億円事業ですが、19日現在、2万9788セット1億7827万8千円の販売です。

豪雨災害被災地へ支援募金
1時間ほどで2万円を超える

8日、市内党支部による九州や山形豪雨災害に

4000万円の赤字になっていきます。市も事業目的と効果、財政的影響等慎重な検討が必要です。

買物客の皆さんに災害募金の訴え

はまゆり 過齡特例の廃止が影響 障害児・者一体施設で整備

7日(金)岩手県沿岸知的障害児施設組合協議会を聞き、山本正徳管理者から「はまゆり学園」の整備計画の変更内容の説明を受けました。

構成市町村補助が増大
整備予定の施設は「はまゆり」と「わかたけ」の障害児・者一体施設として、わかたけ学園への民設・民営の方向で進んでいます

理由は「はまゆり」入所児童の過齡特例(19歳以

上)の見直しで入所者数の減少(10人)による国庫補助金の削減と建物設計変更等によるものです。

障害児分の補助が削減
障害児分補助削減額の約1億1680万円を「わかたけ」で9600万円の負担、構成市町村補助上限を6億4580万円に変更・負担しようとするもので、構成首長の参与会は変更内容を承認しています。

協議では建設費の見直し内容が分かりにくいなどの意見が出たため施設のサービス向上機能の変更内容と事業費の増減が分かる資料が各議員に配布されます。



コロナ禍で迎えたお盆。いつもとは違った。以前は都会から郷里への民族大移動ともいわれた▼それは夏休みとも重なり、海のある宮古市の代表的景勝地の浄土ヶ浜のかき入れ時でもあった。ご先祖様をしのび、新鮮な生ウニと海水浴が最大の魅力



▼浜の人気度一番は「青の洞窟」とか。ネーミングの魅力効果で昔の「八戸穴」の面目も一新。洞窟ではライトブルーの海水が白い岩肌を優しく映し出す▼昔、子どもたちは八戸に繋がっている洞窟と教わった。今は、仙台から八戸まで三陸沿岸道路の全線開通が目前。宮古までの区間は宮蘭フェリーの生命線▼今年の夏は危険な暑さに熱中症で亡くなる方も。コロナ感染者は増加の一方。安倍政権の無策ぶりに支援団体の日本医師会などもしびれを切らし、検査と隔離の拡充を求める。